

1 - 1 日本とその周辺の地震活動（2003年11月～2004年4月） Seismic Activity in and around Japan（November, 2003-April, 2004）

気象庁・地震予知情報課
Earthquake Prediction Information Division, JMA

今期間，日本とその周辺でM5.0以上は69回，M6.0以上は6回発生した。このうち最大は，2003年12月10日に台湾付近で発生したM6.6の地震であった。

2003年11月～2004年4月のM5.0以上の震央分布を第1図に，主な地震の発震機構を第2図に示す。
主な地震活動は以下の通りである。

（1）北海道地方とその周辺の地震活動（本巻「北海道地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

2003年9月26日に発生した平成15年（2003年）十勝沖地震の余震活動は，引き続き減衰傾向と考えられるが，3月中旬以降M5を超える地震が6回発生するなど，やや数の多い状態となっている。なお，本震後，十勝岳から屈斜路湖にかけての火山フロント周辺で小規模な浅い地震活動が活発化している。大局的には時間の経過と共に活動域が北海道北部や東部へ拡散し，網走・根室支庁境界付近〔網走支庁網走地方〕では，2004年4月27日夕方頃からまとまった活動が継続している。

（2）東北地方とその周辺の地震活動（本巻「東北地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

特に目立った活動はなく，2003年5月26日に宮城県沖で発生した地震，及び同年7月26日に宮城県北部で発生した地震の余震活動は順調に減衰している。

（3）関東・中部地方とその周辺の地震活動（本巻「関東・中部地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

茨城県沖で，M5クラスの地震が目立った。この付近は，1990年代中頃から後期に一時活動が低調であったが，現在は活発さを取り戻しつつある。なお，M7クラスの地震は約20年に1回程度発生している。

伊豆半島東方沖で，2004年4月24日～5月2日に小規模な地震活動があり，体積歪計やその他の観測機器に変化が現れた。今回の活動は前回（2003年6月）と同様のダイクモデルでほぼ説明ができる。

（4）近畿・中国・四国地方とその周辺の地震活動（本巻「近畿・中国・四国地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

特に目立った活動はなかった。

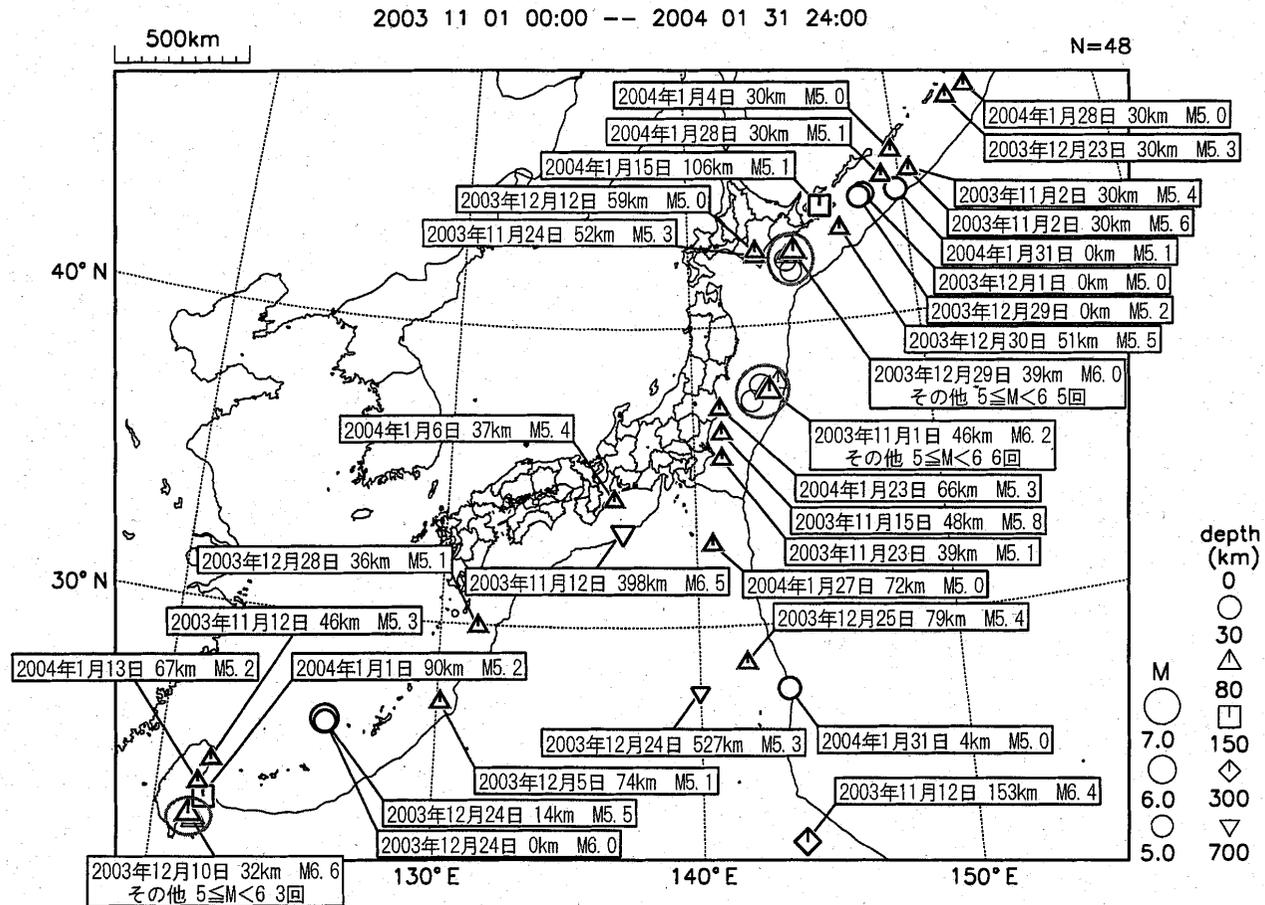
（5）九州地方とその周辺の地震活動（本巻「九州地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

特に目立った活動はなかった。

（6）沖縄地方とその周辺の地震活動（本巻「沖縄地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

台湾付近で，2003年12月10日にM6.6の地震が発生した。1997年10月以降，今回の活動域周辺でM5を超える地震はこれまで観測されていなかった。

日本とその周辺の地震活動 (2003年11月~2004年1月、 $M \geq 5.0$)



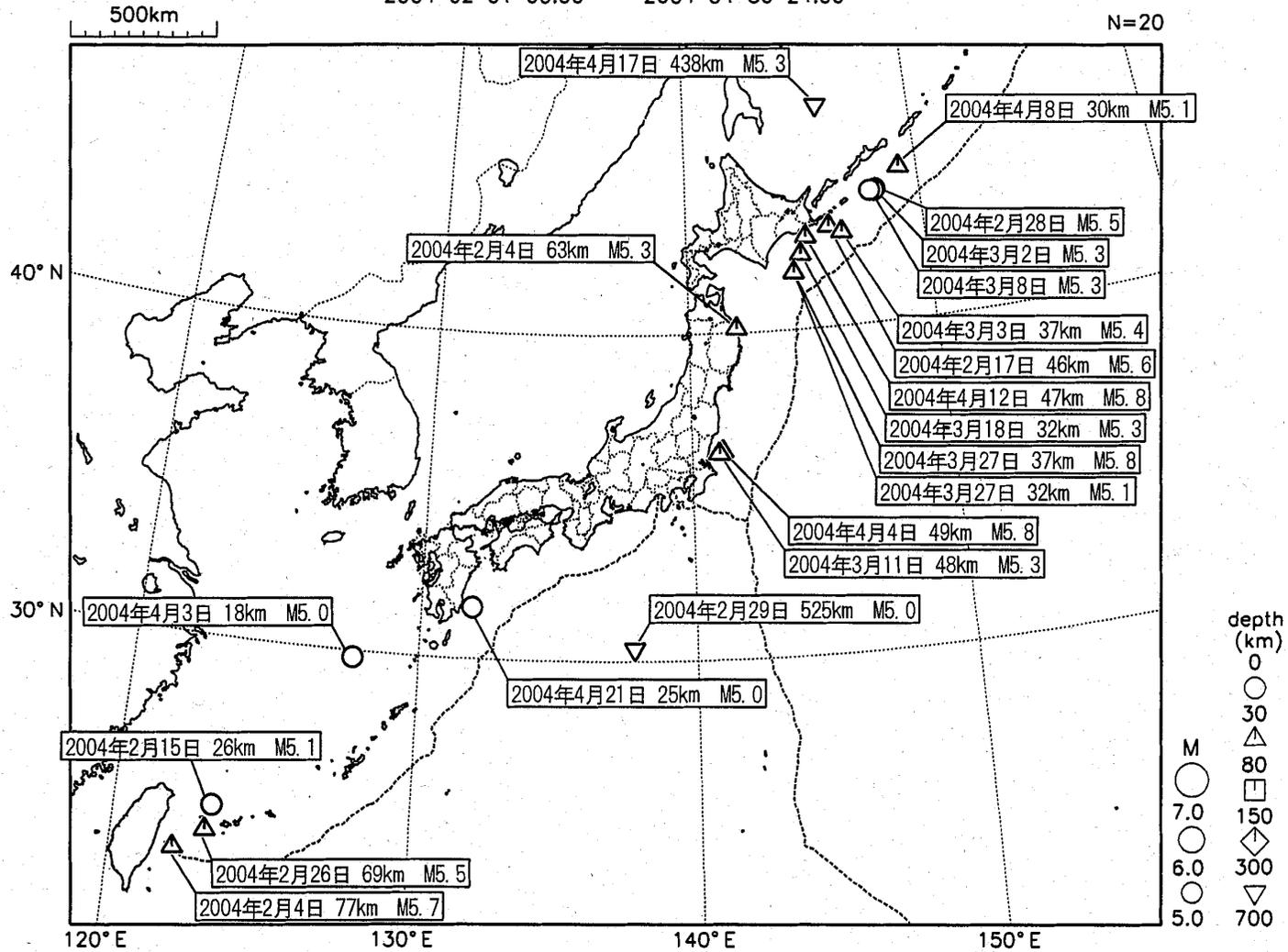
気象庁作成

第1図(a) 日本とその周辺の地震活動 (2003年11月~2004年1月, $M \geq 5.0$, 深さ 700 km)

Fig.1(a) Seismic Activity in and around Japan (November, 2003 ~ January, 2004, $M \geq 5.0$, depth 700 km).

日本とその周辺の地震活動(2004年2月~4月、M \geq 5.0)

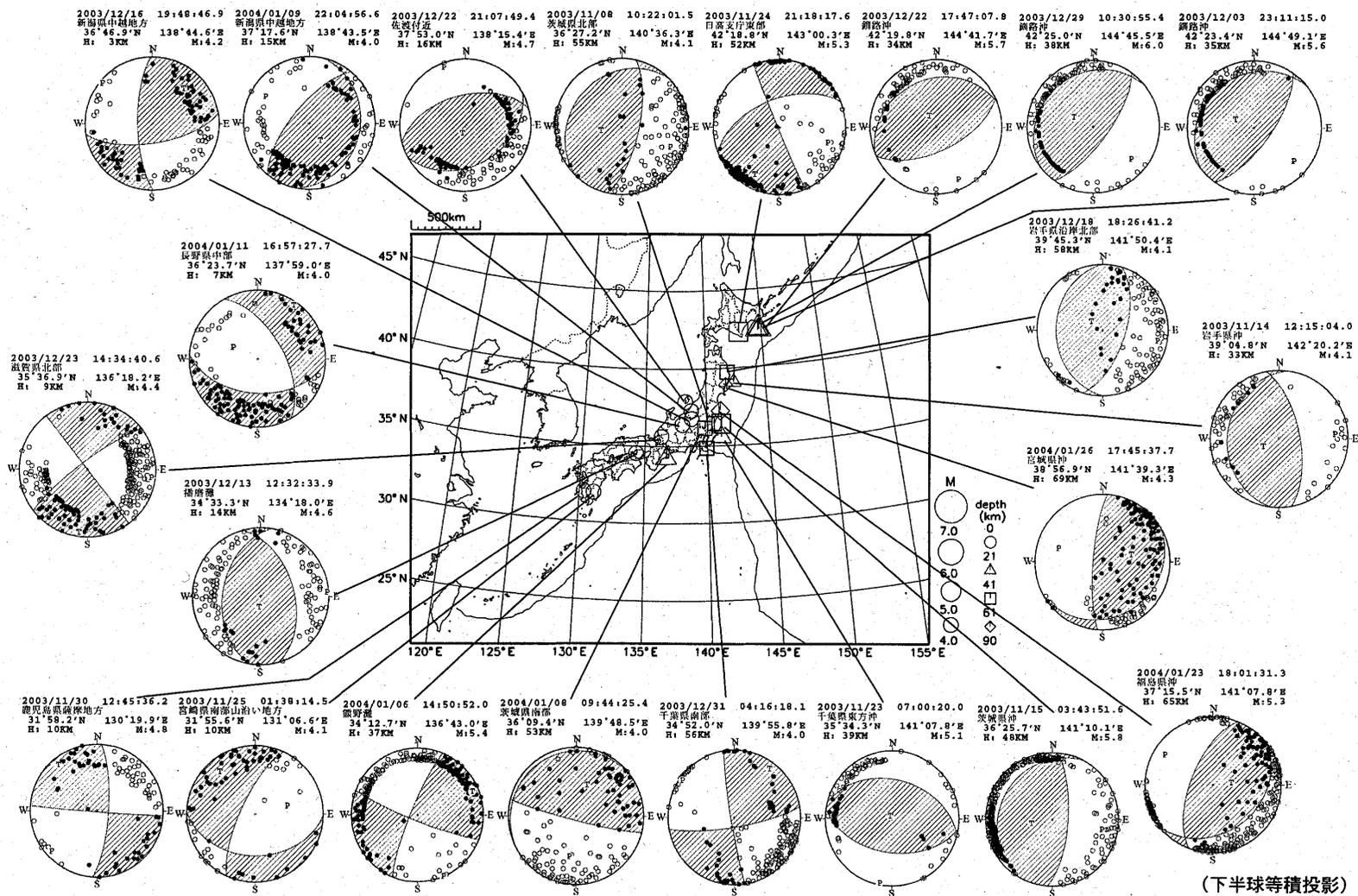
2004 02 01 00:00 -- 2004 04 30 24:00



第1図(b) つづき(2004年2月~4月, M 5.0, 深さ 700 km)

Fig.1(b) continued (February ~ April, 2004, M 5.0, depth 700 km).

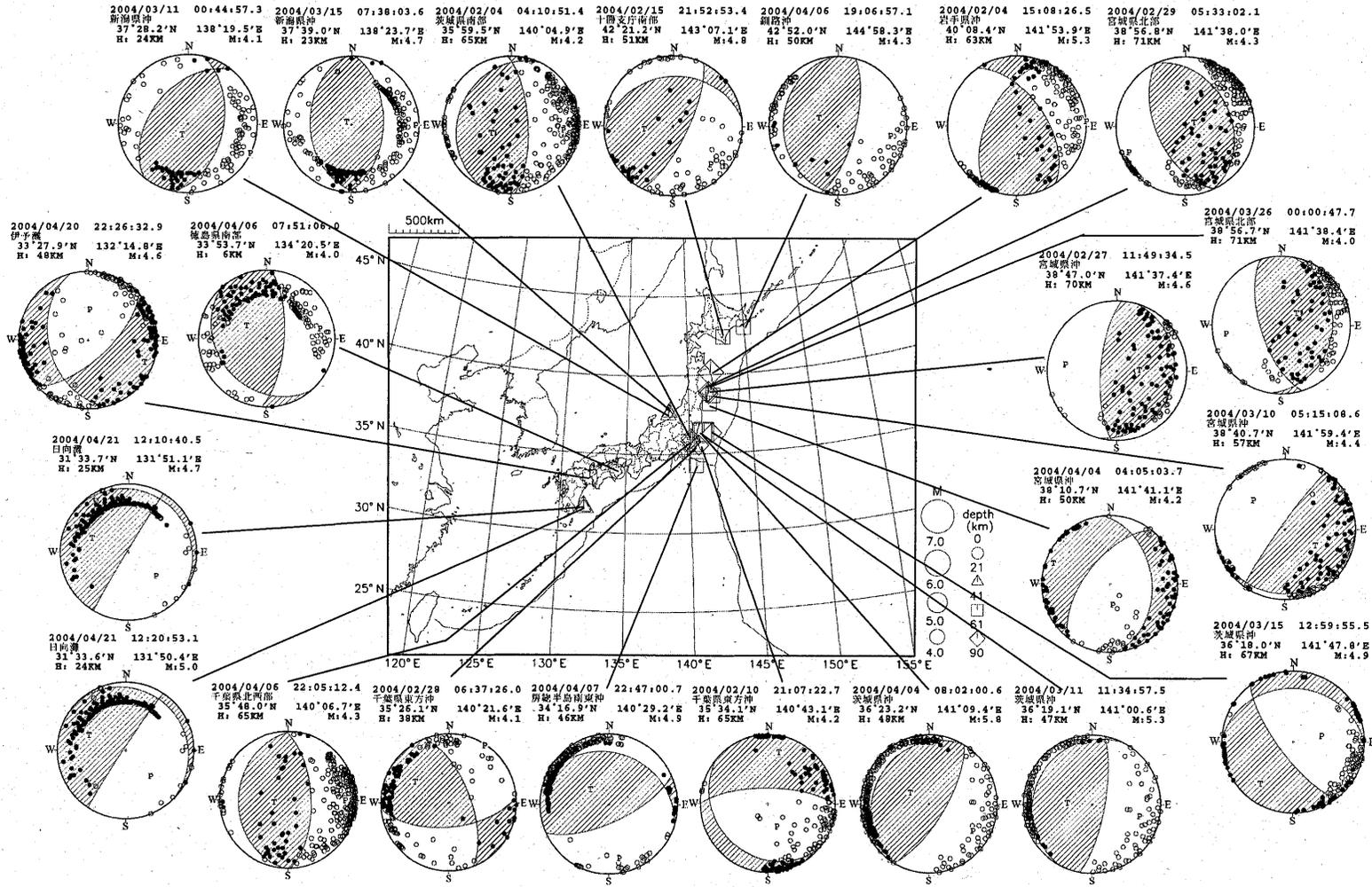
発震機構解 (2003. 11. 01~2004. 01. 31)



第2図(a) 日本とその周辺の主な発震機構 (2003年11月~2004年1月)

Fig.2(a) Focal mechanism solutions of major earthquakes in and around Japan (November, 2003 ~ January, 2004).

発震機構解 (2004. 02. 01~2004. 04. 30)



(下半球等積投影)

第2図(b) つづき (2004年2月~4月)

Fig.2(b) continued (February ~ April, 2004).